

香 歯 発 第 385 号  
令和 7 年 1 月 7 日

関 係 各 位

公益社  
団法人 香川県歯科医師会  
会 長 豊嶋 健治  
常務理事 荒木 哲也  
( 公 印 省 略 )

### 香川県歯科医師会・香川県介護支援専門員協議会合同研修会の開催について

厳寒の候、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は本会会務運営にご理解・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、香川県歯科医師会では、香川県からの委託を受け、地域における医療連携に携わる人材を養成し、保健・医療の質の向上を図ることを目的とし、日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座 専任講師 遠藤 眞美 先生をお招きし、標記研修会を下記の通りハイブリッド形式にて開催します。

つきましては、広くご周知の上、多数ご出席くださいますようお願い申し上げます。

参加希望の方は、裏面申込み用紙より、2月10日(月)までに申込フォームもしくは FAX (087-822-4948) にてお申込みください。

### 記

- 日 時：令和 7 年 2 月 16 日 (日) 9:30~12:30  
会 場：会場受講 (香川県歯科医療専門学校 7 階 8020 ホール)  
web 受講 (Youtube を利用したオンライン配信)  
演 題：“その方らしく生きている”を亡くなる瞬間までみんなが感じられる  
生活支援を目指して ~生活と医療をつなぐ歯科医療~  
講 師：日本大学松戸歯学部 障害者歯科学講座 専任講師  
遠藤 眞美 先生  
対 象：歯科医師、歯科衛生士、介護支援専門員、その他関連職種  
備 考：講演後にグループワークを実施予定。(会場受講はグループワーク、  
web 受講は個人ワークとなります)  
会場駐車場には数に限りがございますので、できるだけ公共交通機  
関を利用していただくか、乗り合わせにてお越しください。

#### 【WEB 受講方法】

香川県歯科医師会のホームページに専用ページ「香川県歯科医師会・香川県介護支援専門員協議会合同研修会」のバナーを準備しますので、下記ユーザー名およびパスワードでアクセスし、受講してください。

(半角小文字) ユーザー名：goudou6 / パスワード：8020

香川県歯科医師会・香川県介護支援専門員協議会合同研修会  
参加申込書（2月16日開催）

（会場受講およびWEB受講のハイブリッド形式にて開催）

以下の URL または QR コードより申込フォームにアクセスし、必要事項を入力してください。今後もオンライン講演会の申し込みは、原則申込フォームから受け付けます。

<https://forms.gle/jJcYBwQpDpCw1o5RA>



会場受講を希望される方は、申込フォームに加え、FAX からも申し込み出来ます。以下に必要事項を記入の上、香歯事務局（FAX：087-822-4948）まで送付してください。

郡市会名 \_\_\_\_\_

歯科医院名 \_\_\_\_\_

氏名	職種	受講方法
	会員歯科医師 ・ 歯科衛生士 その他（ ）	会場受講
	会員歯科医師 ・ 歯科衛生士 その他（ ）	会場受講
	会員歯科医師 ・ 歯科衛生士 その他（ ）	会場受講
	会員歯科医師 ・ 歯科衛生士 その他（ ）	会場受講
	会員歯科医師 ・ 歯科衛生士 その他（ ）	会場受講

申込み締切：2月10日（月）迄

2/16（日）香川県歯科医師会・香川県介護支援専門員協議会合同研修会

“その方らしく生きている”を亡くなる瞬間までみんなが感じられる生活支援を目指して  
～生活と医療をつなぐ歯科医療～



日本大学松戸歯学部 障害者歯科学講座  
専任講師 遠藤 眞美 先生

歯科医療による口腔機能の維持・向上が全身の健康に寄与すると理解されるようになり、歯科医療者は認知症を含む要介護高齢者に対して口腔ケアなどを通して関わるようになっていきます。その関わりの中で、「うまく食べられない」「安全に食べさせてあげたい」など食事に関する訴えは多く、今までであれば歯がない、義歯は使用していないと歯科医療者に関わらなかつた寝たきりの方々から訪問診療の依頼を受けることも少なくありません。寝たきりで経管栄養中の方に対して口腔ケアおよび摂食嚥下リハビリテーションの実施や義歯調整などの歯科治療は表情を豊かにしたり、摂食嚥下機能などを向上させて経口摂取の実現につながった経験がある方もいらっしゃると思います。しかし、食事は口腔機能だけでなく、食材を認知し、口に運んで食べようとする意欲などが必要であり、認知・運動・情意の3領域が関係しています。この3領域は食事に限らず日常行動の遂行にも共通して必要であり、食事を通して各領域を評価することによって気づいていなかった認知症の発見が早期にできたり、学習の過程で獲得した機能や意欲が食事という範疇を超えて食事以外の様々な適応行動を引き出すきっかけとなることもあります。例えば、お箸を使えるようになると字を書けるようになったり、「いただきます」という言葉が出るようになると周囲へ「ありがとう」などの感謝を表現できるようになったり、食事を楽しめるようになると他のリハビリテーションへの積極性が向上した方々と出会ってきました。口腔ケアを含む歯科医療は対象者の適応行動を引き出すことによって医療と生活をつなぎ、ひいては周囲の人の介護負担を軽減する可能性があると考えています。

一方で、認知症高齢者への歯科治療計画やケアプランの決定には介助者の希望が反映されやすく、認知症だから間接訓練や自食のリハビリテーションは行わないという消極的な場合もあれば、義歯さえ製作すれば咀嚼できるはずだと積極的な歯科医療介入を希望する場合もあるのが現状です。しかし、その対象者は患者本人です。実際、認知症の方の想いを知ることは難しく、患者自身と周囲の希望に乖離を認めることは多いのではないかと思います。本人の納得が得られないまま一方的に治療を進めると良好な治療効果が得られないだけでなく生活への活力も減退し、認知症症状が進行する可能性も否めません。生活に身近な歯科医療者は患者に寄り添い、対話することで

その思いに気づきやすいと同時に、周囲の人たちに対して歯科医療に関する知識提供と技術支援を行いながら円滑なコミュニケーションを図るコーディネーターの立場もとれます。特に、訪問診療といった相手のくらしの中での関わりは、両者の希望の乖離を埋める役割を担うことが出来る可能性を秘めています。患者の思いを理解し、“その方らしさ”を叶えるためには、歯科医療者は歯科医療者として、介護職はそれぞれの専門職種としての知識を習得したうえで、家族と共にご本人に興味を示し、日ごろから対話を続ける心配りが重要と考えています。

今回の講演では、臨床での経験を通して、歯科医療者として関わってきた中で要介護高齢者の皆様からいただいた笑顔をご紹介しながら皆様とお時間を共有させていただきたいと思います。

#### 【ご略歴】

- 2005年4月 日本大学松戸歯学部 障害者歯科学講座 助手（専任扱い）
- 2010年3月 公立大学法人九州歯科大学 生体機能制御学講座 摂食機能リハビリテーション学分野 助教
- 2011年4月 公立大学法人九州歯科大学 生体機能学講座 老年障害者歯科学分野 助教
- 2012年4月 日本大学松戸歯学部 障害者歯科学講座 兼任講師
- 2012年4月 公立大学法人九州歯科大学附属病院 病院講師
- 2011年4月 公立大学法人九州歯科大学 生体機能学講座 老年障害者歯科学分野 助教
- 2012年4月 公立大学法人九州歯科大学附属病院 病院講師
- 2015年4月 九州歯科大学 非常勤講師（現在）
- 2015年4月 日本大学松戸歯学部 障害者歯科学講座 専任講師（現在）